

後援会通信 NO.7

「後援会らしい活動」

会長 田辺 真理



後援会は、学園の子ども達をサポートする応援団として様々な活動をしております。昨年に引き続きPTAバザーへの参加、留学生のホームステイ支援等、通年行なわれている協力・支援に加えて、今年度は幼稚園の子どもたちへの「ちくちく（裁縫）サポート」中高への「手作り味噌の支援」を行いました。（詳細は記事参照）子ども達との交流は楽しくわくわくし、私たちに希望を与えてくれます。こうした活動ができるのも、一重に会員の皆さまのご理解ご協力があった賜物と感謝しております。そして、皆さまにも子ども達と交流できる機会を、どんどん発信していこうと思っております。今後も学園が大きく掲げているグローバル教育、食育への支援を視野に、子ども達の輝く未来に大きく繋がるような活動をしていきたいと思っておりますので、皆さまにもご無理なく楽しんでご参加頂ければ幸いです。

保護者の皆さん 後援会にご一緒にはいませんか！ 学園長 仲本正夫



高校を卒業されるみなさん おめでとうございます。元気で活躍してくださいね。
保護者のみなさん おめでとうございます。
みなさんが中学に入学された6年前に、私も湘南学園に学園長として就任し、みなさんと一緒に6年間を過ごし、そして、卒業することになりました。
湘南学園は、多くの方たちに支えられてきましたが、後援会もそのひとつです。後援会は、卒業生保護者のみなさんを中心にした湘南学園の子どもたちが大好きで、子どもたちのために、卒業後も応援していきたいと思う人たちの素晴らしい集まりです。
私は、在任中、後援会の人たちに80周年行事など難しい問題にぶつかるたびに何度も助けていただきました。卒業生の保護者のみなさんは、PTA等いろいろと湘南学園の活動にかかわってこられましたから、学園の現状や歴史などいろいろなことをよく知っておられて、湘南学園の知恵袋のような働きもされています。このことは、教職員と保護者で理事会をつくり、学園を運営するという大変珍しい形態をもつ湘南学園にとって非常に重要なことでした。
なぜなら、湘南学園は、子どもたちのための教育をすすめるという点ではすぐれています。評議員や理事の任期が2年という短さから、学園の経営や運営の継続性という点では弱点をかかえているからです。私は、この湘南学園の弱点をカバーするという大変重要な役割を後援会が果たしていただいていると思います。
湘南学園の子どもたちが、これからも瞳を輝かせて学園生活が過ごせますように、子どもたちの応援団になっていきませんか。私も卒業と同時に、後援会に入会することにしています。



ヤングアメリカンズ開催への支援（公演日 平成28年3月17日 18:00～20:00）

湘南学園中高主催で藤沢市民会館大ホールにてヤングアメリカンズが開催されます。
後援会は開催への支援として今年も50,000円寄付させて頂きました。
皆さまにも是非ご観覧頂き、子ども達の歌や踊りの素晴らしいショーから、躍動と感動をプレゼントできればと思います。（チケット1枚1,000円：詳細は同封のプリント参照）

バザーの報告



昨年の雨天とは違って変わって眩しいほどの晴天に恵まれた10月4日（日）、後援会は昨年と同様、会員の皆さまからの手作りケーキ、クッキー、手作り手芸品、寄贈品等を出品し、今年は今までの最高額139,521円の売り上げがありました。

また当日のお手伝い等で親睦も深める事が出来て、会員の結束がより一層固まり皆様のご協力には本当に感謝しております。ありがとうございました。また来年、バザーが行われる時には今年と同様にご協力のほどよろしくお願い致します。

後援会役員 林 美和

幼稚園ちくちく手伝い

幼稚園に通っていた娘が高校を卒業して、五年目の秋。元気をいただけたお手伝いでした。自分で絵を描いたランチョンマットの縁をきちんとアイロンして、まつっていく。針？痛くない？と、半分心配しながら見ていると、縫い目は色々あるけれど、さくらさんたちは、楽しそうにおしゃべりしながら、真剣に、針を持つ手は、動き続けてました。

針に糸を通し、かたむすびをする手助けをするだけで素晴らしい作品が仕上がり、私達も楽しい時間をいただきました。 後援会副会長 芳土戸 ルミ子



後援会会員 オーストラリアからの留学生

ホームステイのお手伝い

・ジャック君のホームステイ・

今回、後援会からお話を頂き、オーストラリアから来日したノックス校の生徒（卒業生）さんのジャック君をお預かりする事になりました。全日程は、9/22 から 10/2 までの 10 泊 11 日でした。私共では、後半の 9/27 から 10/2 まで 5 泊 6 日間お引き受けしました。

我が家は、子ども達も独立し、夫婦二人きりの家庭なので、楽しいことは、何もしてあげられなかったのと、言葉のコミュニケーションもうまくとれなくて、彼は、どうだったのかなあ？と気がかりでしたが、荒木先生から「私の家が、居心地がよかった。」と伺いましてほっとしました。

短いスケジュールの中で、学園生と卒業生が、BBQ・ポーリング・鉄板焼にとお付き合い下さり、また我が家に来て楽しい時間を共有して下さった彼らには感謝致します。

何年か振りに、お弁当を作りました。また、学園と一緒に自転車 2 台で登下校もしました。我が子達の学園生活を思い出しました。短い期間でしたが、楽しい時間を過ごさせて頂きました。今後、また何かの折には、微力ですが学園の子ども達をサポートする応援活動ご協力させて頂きます。

会員 原田 紀子



・マックロバートソン JAPAN Tour のホストファミリーを体験して・



6月25日、メルボルン・マックロバートソン高の引率の先生4人を含む40人の女子高生が学園に到着。両校の合唱による素敵な歓迎交歓会が催されました！！続いて、我が家は美大進学希望の高3生シャロンをお預かりしました。朝、晩、世話係をかって出たバディの学園生2人が家まで送り迎えに見え、ランチも一緒にして、同世代同士あっと言う間に打ち解けて楽しそうでした。放課後は一緒に買い物したり、休日には近所にステイしているビッキーファミリーグループ共々水族館に行ったり、夜はゆっくりメルボルンの話を聞いたり（路面電車が江ノ電そっくりとか）、～29日まであっと言う間の4日間でした。

今回来日したマック女子高の皆さんは日本語を専攻していて、シャロンも日本食も何でも食べられ、帰りには美しい字で我が家の家族それぞれに日本語の手紙をくれ、胸がいっぱいでうるうるしてしまいました！こうして図らずも、オーストラリアにもう1人可愛い娘ができたことに感激致しております。いつも素敵な機会をくださる学園に深く感謝致しますと共に、益々のご発展を祈念いたしております。

会員 奥 和子

第6回総会及び懇親会のご報告

平成27年4月18日(土)に湘南学園後援会第6回総会が開催されました。

冒頭、来賓の疋田博史副理事長(理事長代理)、仲本正夫学園長、大野圭介PTA会長、筧元則同窓会会長、山田明彦中高校長(後援会担当理事)よりご挨拶を頂戴いたしました。

詳細に関しては、湘南学園ホームページ内「湘南学園後援会」をご覧ください。

(<http://www.shogak.ac.jp>)

1. 第1号議案
事業報告及び収支計算報告の承認を求める件 (全会一致で承認)
2. 第2号議案
事業計画及び収支予算案の承認を求める件 (全会一致で承認)



総会后出席者にて会費500円を頂戴し懇親会を開催しました。NPO法人湘南食育ラボより手作りのシフォンケーキ、珈琲、紅茶をいただきながら、新会員の方のご挨拶やチーム湘南学園でご活躍の方々にお話を頂戴し、大変和やかで楽しい会を催すことができました。尚、この日学園にも深く関わりのある、リトアニアの「杉原記念館」修繕への寄付に関して後援会から50,000円寄付することをご承認頂き、当日ご寄付を募ったところ、30,000円の募金が集まりましたので、合計80,000円の寄付を、4月20日学園にお渡しすることができました。

*杉原千畝氏とは

日本の官僚、外交官である。第二次世界大戦中、リトアニアのカウナス領事館に赴任していた杉原は、ナチス・ドイツの迫害によりポーランド等欧州各地から逃れてきた難民たちの窮状に同情。1940年7月から8月にかけて、外務省からの訓令に反して[1]、*1大量のビザ(通過査証)を発給し、およそ6,000人にのぼる避難民を救ったことで知られる。「日本のシンドラー」などと呼ばれることがある。日本へ帰国後、一家は神奈川県藤沢市・鵜沼松が岡に居を据えた。2000年(平成12年)、河野洋平・外務大臣の顕彰演説によって、日本国政府による公式に*2名誉回復がなされた。それは、千畝の没後14年目、そして生誕100年という節目のことであった。(ウィキペディアより引用)

*1:大量のビザは、命のビザともいわれている。 *2:杉原氏の博愛人道精神に基づいた勇気ある行動は、日本公使館にユダヤ難民が殺到するという前代未聞の外交事件・本省訓令の無視として扱われ、帰国後は言われ無き迫害にあい四七才で依願免官となった。

8月28日、坂元先生〔中高家庭科教諭〕のお手伝いで、中学一年生・高校三年生十数名の子ども達と味噌作りをしました。

味噌作りの講師は、添加物化学調味料フリー、素性の判る安心安全な食材を使ったお料理店を開いている、元保護者で料理研究家の佐藤市子さんです。

作業をしながら話して下さる佐藤さんの教えは、味噌に蓋をする竹皮の殺菌効果、枇杷の葉の薬用効果。伝統食を頂いて繋げる命の尊さ。

正に湘南学園が推進する食育そのものです。

10月から中学2年生の家庭科授業で、この味噌作りを行っているそうです。



松ぼっくりフォーラム参加記

後援会副会長 小田 拓也



この度のテーマは「グローバル教育」、世界規模で進行する「グローバル化」の中で湘南学園は、如何に向き合い認識を高めるのかが本イベントの主旨。基調講演に元朝海元EU代表日大使、コーディネーターは元NHK鈴木健司氏、学園関係者、PTA、同窓会後援会各代表がパネリストに10余名が並び、主催者の意気込みが伝わるイベントでした。

後援会代表パネリストは田辺会長、

学校運営の経験による教育観を披瀝、各パネリストからはグローバル教育の行方、英語教育の在り方などを切り口にコメントがなされました。

湘南学園の子供達にとって「グローバル化」はどのように映っているのでしょうか。個性を損なわず社会で明るく羽ばたいている卒業生の姿は、「グローバル化」に向き合う為の「構え」を自覚しているように見えます。在校生、社会人となった学園生達の視点からの意見を聞く機会を期待する思いが新たになりました。



Kokoro 赴くままに NO. 7



鵜沼郷土資料室

後援会役員

近藤正隆

昨年、新聞に鵜沼郷土資料室が企画展を行っていることが紹介されていた。私が知っているだけで「鵜沼海岸海水浴場の歴史を振り返る」、「あの戦争が終わって…70年」、「芥川龍之介の自筆資料や、ゆかりの作家などを紹介する企画展」の3回もある。いずれの記事にも鵜沼郷土資料展示室運営委員会副委員長の内藤喜嗣さんのコメントが載っていた。内藤さんは企画展の中心メンバーなのだろうと思った。

内藤さんは湘南学園と深く係わりがある。藤沢や鵜沼の歴史を研究している郷土史家であると共に、湘南学園の歩んできた道についても精通している。湘南学園の卒業生であるだけでなく、法人の理事をもなされていた。特別教育では学園生に鵜沼の郷土史を講演したこともあると聞いている。私は在職中には何度も会い貴重な話を聞かせていただいた。

今から15年程前のことである。私は「湘南学園70年の営み」を作成するにあたって学園の沿革を書くことになった。10年ごとに発行されている記念誌で「学園の沿革」に手が加えられていないことが気になった。そこで、それまでに出された学園通信、学園だより、学校だよりを読み返し大幅に書き直すことにした。

当時、新校舎が建設されたばかりで資料の管理が十分でなく混乱していた。内藤さんには資料を借りたり、意見を聞かせていただいた。それで何とかまとめたが、とても十分とは言えず、検証されなければならない内容である。学園が歩んできた道を複数の学園関係者で議論しまとめることが必要な時期が来るだろう。将来の湘南学園のあり方を考える上では避けられないことではないだろうか。

* 近藤正隆 先生プロフィール：湘南学園に35年間勤務。学園長代行、中高校長を務められた。現 後援会役員。